



〒211-0035 川崎市中原区井田 3-10-31  
公益財団法人 現代人形劇センター内  
TEL : 044-777-2228 FAX: 044-777-3570  
e-mail : deaf@puppet.or.jp  
URL: http://deaf.puppet.or.jp/

Twitter, Facebook もやっています!

Twitter DEAF\_PUPPET

Facebook 「デフ・パペットシアター・ひとみ」



By 大里千尋

## 日々制作...



By 中西優樹

河童の初演の川崎市公演に向けて、市内を中心とする観る会を立ち上げました。

デフパペの川崎市公演に多くのお客さまにお越しいたごき、あらゆる方が生の舞台を楽しむ場がもっと当たり前になり、観る会に集まってくれた方・団体が繋がり、公演後も大きな取り組みを一緒に出来るようなチームを作りたい、と今回考えています。

行政、社会福祉協議会、手話サークル、演劇関係者、大学、と、本当にあらゆる分野でご活躍される皆さまにお越しいたごき、第1回目は議論が盛り上がりしました。

中でも、ろう者で日本聴覚障害者心理協会で活躍されている小坂正史さんのご意見で、

「企業や行政で見られがちな“多様性を受け入れ新しい何かを生み出すことを目的”とした取り組みはほとんど当事者を抜きに進めているところが非常に多く、私が直に関わることにより、当事者視点でいろいろと提言したい思います。

障害のあるなし関わらず楽しめる場をつくるということを進めて行くためには、合理的な配慮ができてはじめて実現できると考えています。

という発言には、そ、そうなのか、と少しの驚きがありました。

今まで関わってきたデフパペの地方実行委員会には、必ずといっていいほど当事者の方がいらっしゃって、私たちが見落としがちな課題を発見してくれたり、なにか問題が発生したときに解決へと向かうアドバイスをいただくことが多かったので、違いがある人たちが一緒にやる方が全体にとってうまくいく!という経験をたくさんしてきました。

多くの地域でこの形がまだまだなされていないのであれば、是非今回川崎からモデルをつくり、河の童-かわのわっぱ-のテーマともリンクする、共生について考える機会になればと思っています。

季節の変わり目、皆さまご自愛下さい。いつのまにか、自分が制作に入って半年以上が経ちました。時の流れの速さをひしひしと感じております。

半年の間、来年の新作に関わる色々な作業をしておりました。

新作は河童をテーマにした作品。子どもの頃から水木しげる先生が好きで、今でも妖怪に興味津々で大学の卒業論文のテーマを妖怪にした自分にとっては、なんとも嬉しいテーマであります。

皆さんは河童と聞いたらどういったイメージをされるでしょうか。

怖い。可愛い。悲しい。可笑しい...色んなイメージを河童に持っていると思います。

それだけ多くのイメージが河童にあるということは、それだけ河童が昔から愛されて、多くの物語やお話に登場しているからだと思います。

そういった数多くある河童の物語の一つとして、デフの新作が生まれます。

河童が登場する物語、皆さまの中にも一つ思い浮かぶものがあるのではないのでしょうか。

デフ・パペットシアター・ひとみの新作「河の童」、現在鋭意制作中ではありますが、皆さまが河童と聞いたら最初に浮かぶような心に残る作品になることができればいいなと思います。

そして、まだまだ未熟な自分ですが、少しでも新作を作るための力になればいいなと思っており、皆さまに新作をお届けできる日まで頑張っていこうと思います!



## 旅公演レポート！

Bv 吉村衣世

デフ・パペットシアター・ひとみは、今秋に「森と夜と世界の果てへの旅」関西ツアーを控えています。

10/8 大阪八尾、10/9 兵庫県明石市、10/12 福井県敦賀市です。いずれも地域の方たちと一緒に取り組む「実行委員会」形式での公演。実行委員形式での公演は、それぞれの地域性が色濃く出ます。

大阪は障害のある人ない人、一緒におもしろもん楽しもうや！という団体さんが集まっています。

明石は子供たちに質の良い芸術を見せたい！という団体さん。代表はまだ大学生という若さですが意志と実行力のある地域の担い手です。観劇のプロである親子劇場さんなどベテランがアドバイスして実現に至っています。敦賀はデフパペット結成時から応援してくれている方々や若者が中心に集まっています。

普段は主婦をやっているんだけど、お坊さんをやっているんだけど、学生なんだけど、という色々な方が第二の顔を持ち活躍する実行委員会。それぞれの人生や想いがデフ・パペットシアター・ひとみに重なった時、また新しい価値観や目標が生まれてきて、それはそれは素晴らしい瞬間です！私たちはいつもその瞬間に後押しされ舞台を届けることができます。

そんな空間を体験したことのある人もない人も、是非観に、会いに来てくださいね。

## 三ヵ月に一度のこんには

=レッスン始めました=

新作「河の童」(かわのわっぱ)に向けての身体のレッスンの1回目。

「普段は舞踏というものをやっています」という方に来ていただいて3時間しっかり動いた。

「まず、身体をあたためましょう・・・雑巾がけしましょうか」から始まった。

身体があたたまったところで、「寝ましょう」と仰向けに寝て、足の裏から息を入れて(吸って)、頭の前から出す(吐く)。これをゆっくりゆっくり。床と仲良しになったような感じ。そして2人組になり力が抜けているか、手、足、身体全体をゆるゆるゆすってみる。相手に操ってもらう。自分からは動かさない。足をまげる、手を上げる、顔を横に向ける、など。次はそれを自分でしてみる。誰かにされているように動かしながら起きる。

四つん這いになり丹田と言われる辺りに「タマ」が生まれ、それが身体の中を通過して口から息と一緒にでて、床を通過してまたお尻から身体にはいり・・・ゆっくり「タマ」の移動を感じ(イメージ)ながら、呼吸をする。それをしながら動物のように動き始め、だんだん進化して2本足で歩くようになる。お互い相手が人間だと思ったら握手・・・などなど。多分これを読んだ人は何のこと?かもしれませんが、終わった時には、背中が柔らかく、首の後ろがさっぱり?頭の中がスッキリ?、したような、気がしたのです。

「寝ている」から「起き上がる」この「間(あいだ)」が大切なんです。

どう起き上がるか と、1回目のレッスンは終わり。

人形や仮面を遣う私たちの身体、「河の童(かわのわっぱ)」にどのように生かすか。

次回、2回目もやります。

やなせけいこ

## ★新メンバー紹介★

はじめまして。デフの新人の増子仁美(ますこひとみ)です。舞台経験はほとんどありませんが、デフに入るまでは手話通訳の勉強をして通訳として仕事をしてきました。以下、自己紹介文です。

【手話に出会ったきっかけ】それは2011年の東日本大震災でした。当時、大学を卒業したばかりの私は渋谷にあるライブハウスで働いていました。しかし震災を機に自らの専門分野と言えるような技術を身につけたいと強く思うようになりました。その思いがピン!という閃きに変わったのは、政府の会見をテレビで見ていた時でした。手話通訳がつくようになったばかりの会見を見て「手話を覚えたら身体ひとつで支援に行ける!」そう思ったことが手話を勉強するきっかけとなりました。その後、手話通訳の専門学校に2年通い手話通訳士の資格を取得しました。

【デフに入ったきっかけ】専門学校を卒業したあと、私は日本手話における表現の可能性を探り始めました。というのも去る2014年にthe HIATUS(ザハイエイタス)というバンドの武道館ライブに手話通訳者として出演する機会をいただいたからです。この経験が手話通訳の中でもとりわけ舞台芸術に関する活動へと私を向かわせることになりました。

さまざまな団体で活動していく中で、デフの榎本さんやデフの制作の大里さんと出会ったのです。‘ろう者と聴者が共に創る人形劇団’。使用言語の違う人たちの集まりだからこそ、私に出来ることがあるのではないかと。そんな思いを抱いた頃にはもう...デフのお稽古の見学に来ていました。デフの新人、増子。どうぞお見知りおきください。

## 新作情報!

観る会が始まりました!

「河の童」観る会が立ち上がりました。9/22に観る会に参加頂く皆さまで第一回会議が行われ、多くの意見を頂くことができました。皆さまのお力添えを頂き、良い作品を作って行こうと思います!第2回も随時開催しますので、ご興味があるかたはご連絡ください!



イラスト・本川 東洋子